

めだかの学校だより

- 平成11年5月1日
第24号
学舎：いなさ自然休養村
<つみくさ>
事務局：引佐郡引佐町
東久留女木 472-111
TEL 053-545-0381

校長訓話

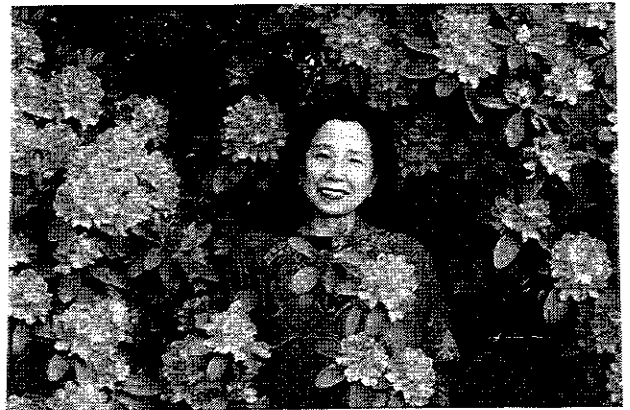
第二十四回校長 久米かよ子

めだかの学校だより校長訓話の中には必ずといっていい程任命された瞬間の気が記されています。私も「エエッ」「私が?」「なんで・・・」「どうしようー!」とまさに青天の霹靂とでも言うのでしようか。欠席も多く給食の時間や給食当番の試食時には、誰よりも目を輝かせて頑張る「めだか」に胸が下ったのだと自分自身に言い聞かせ反省しています。

さて、光陰矢の如し 月日の経つのは本当に早いもので、私も仕事から離れ10年が経ちました。前回、加茂先生の「カモがネギをしょってきた」の授業で草笛のご指導を頂きましたが10年前までの自分を思い胸が熱くなりました。園児たちと山に登れば一枚の葉をまるめて笛にしたり、細長い葉を口に当てて吹いたり、タンポポの茎を適当に切りみんなで吹いては「小鳥さんみたいー!」「怪獣の声だよー!」「オナラー!」など園児たちが喜んでくれたことをなつかしく思い出



されました。井の中の蛙大海を知らず 全く世間知らずの私もボケ防止にと始めたのが紙粘土人形です。可愛い素晴らしい子供の世界から温かい素晴らしい大人の世界に入る事が出来ました。



まためだかの学校では各地域で活躍されていらっしゃる方々にもふれ合うことも出来、色々な世界があるものだと感じ、自分の無知さに腹立ちさえ感じます。

「雑煮の魚まじり」まあこんな校長もたまにはあってもいいか・・・と勝手に思っています。何事でも努力をすればそれだけ成果がある。努力がすぐ実らなくても焦らず腐らずにめだかの学校の一生徒として恥じないよういつまでもみなさんと一緒に頑張っていけたら幸福です。

めだかの学校伝言板

..... 第24回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日/平成11年6月4日(金)6:20PMより

校長/久米 かよ子・教頭/平本 尚久
用務員/鈴木芳雄
給食係/井上亮子・深谷孝・松本芳廣
佐野文子・松本泰榮・山下愛子
加茂光廣・西原弘・尾上美智子
鈴木武史・渡辺三ツ子(チーフ)

受付/久米久乃利・鈴木正子・鈴木計芳
服部守孝(後見人)

時間割

1時限目=山崎敏明先生
人文地理「昨今の旅事情・・・いい日足袋立ち」
2時限目=金子芳美先生
家庭科「主婦業を忘れた主婦(?)の言い分」
3時限目=鈴木正士先生
一般社会「モノ好きヒト好きシゴト好き」

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山1737-286
いなさ自然休養村「つみくさ」
☎ 053-543-0321 (開校日のみ)

めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

■地域づくり団体全国研修交流会

「タマシ宮崎でパワーアップ」

今回は10回目となる全国交流会。今年の開催地は南国宮崎。1月29日(金)・30日(土)の2日間の日程でおこなわれました。小書のチーフく名古屋空港より、空路約50分、「うーん、さすが南国、暖かい！」気温14度のアヲウンスに納得し、分散会場の都城市へむかいました。島津公発祥の地でもあるこの地域一帯は、昔から二市七町が市町村境、県境を越えて一つの文化圏を構成、交流をしています。事例発表をおこなった団体いづれも、行政の壁を乗り越え、広い範囲での活動をおこなっており、市町村に囚われがちな地域という言葉の概念を改めて考えさせられました。そして交流会。会場入口には本日の参加者全員の名刺が張り出され、全員による名刺投票コンテストがおこなわれました。そして、その結果は：「なんと、私の名前が第二位に選ばれてしまい、賞状とともに、手に持ち切れないくらいの地場産品地酒e.t.c.の賞品がドッサリ！この名刺、10年以上使っていますが、いっぺんに元を取ってしまいた気分でした。おかげ様で数十枚は持っていった名刺は、アツ！という間に品切れに：こんな具合で始まった交流会いろいろな人との出会いがありました。写真でしかお会いしたことなかった「かがり火」の支局長さん、何年かぶりに再会できた方、そして地元宮崎県でガンバル大勢の方々。初めて会った人、なつかしい人、皆んな十年來の友のように熱く語り合うことができるって、本当に素晴らしいことだと思えます。場所を移動しての2次会でも、皆、夜の更けるのも忘れ夜なべ談義に花が咲き、いつは果てることなく続いたことはいまでもあ

りません。翌日は眠い目をこすって宮崎市のシーガイアへ。全体会では、県内各分散会での報告発表をおこない、すべての日程を終了、あつという間の2日間でした。地域が違っても想いはひとつ、全国のいろいろな所で同じ志を持って仲間達が頑張っている：参加者はそれぞれの想いを胸に、次回、岩手県での再会を約束して各地へと戻ってゆきました。

(鈴木武史生徒・遠州横須賀倶楽部)

■平成11年度しずおか未来づくりネットワーク交流会は、今年も7月17日

今年も、三ヶ日町を主会場にして引佐三町でどうかと、三ヶ日町の夏目厚司生徒が、中心となる団体や役場と交渉しています。三ヶ日町で決まれば、細江町と引佐町へ話しかけとなります。10年度は、11月下旬に清水市三保で清水市と庵原三町が協力しあつて開催しました。この交流会では、蒲原町の服部竜一、片瀬信江、富士川町の柿木恵美子、天野恵美子をはじめ、鈴木武史、北島亨、大石忠志、榎原幸雄、コーディネーターとして花井孝、武井紀夫らのめだかの生徒が、企画段階から参画し、交流会を大いに盛り上げました。

引佐三町に決まれば、生徒の人数も多く、大いなる協力要請がしずおか未来づくりネットワークからあると思えます。その際には、ドンと胸を叩いてください。

「いや、俺のところでもやりたい、私のところでもやりたい！」という方がありましたら、「早い物勝ち！」ですので、静岡県市町村課地域振興室まで電話して下さい。

TEL(054422113269)です。
なお市町村課室長村松藤雄はめだかの生徒です。
(榎原幸雄生徒)

■第8回地域学フォーラム in伊東(全国大会)開催

「観光ビッグバンへの挑戦」もはや、観光という言葉が古いのかを標題に、第8回地域学フォーラム in伊東が、5月20日(木)、21日(金)の2日間にわたって、伊東市観光会館を主会場に開かれる。

今回は、全体集会和テーマ別フォーラムと2つのスケジュールとなっており、テーマ別フォーラムでは、①「エコウィリズム・グリーンツーリズム」②「日本温泉文化」③「観光システム」に分かれています。

第2日目は、12時全体受付、13時テーマ別フォーラム、17時テーマ別フォーラム終了。18時全体交流会、20時終了。第2日目は9時30分テーマ別フォーラム2日目開始。12時テーマ別フォーラム閉会(昼食)。13時全体会議セラモニー。13時15分プレゼンテーション「伊豆新世紀創造祭」観光ビッグバン伊東市の挑戦。13時45分総括討論会テーマ「観光ビッグバンへの挑戦」、パネリストは石森秀三(国立民族博物館教授)、郷田實(前宮崎県綾町町長)、石川嘉延(知事)5人。15時全体会議閉会。

テーマ別フォーラムでは、①「エコウィリズム・グリーンツーリズム」では、事例報告として、ホールアイズ自然学校、くまの里、アクティイブ、鹿児島県屋久島、宮崎県綾町からの報告。②「日本温泉文化」では、問題提起として「日本の温泉文化って何だろう?」。ワークショップでは、温泉文化ハンディング、湯めぐり、温泉グルメ、地元の人と語るなどがある。③「観光システム」では、事例として、「静岡県/チエジイ豆2000 伊豆の挑戦」全国環境と人になやましい観光システム(小山重幸)トムヤークラブ事務局次長。地域と地域文化館長。ユザワのニーズとおもてなしシステム(本間幸男山形県あつみ温泉萬國屋社長)である。

参加料は無料。ただし資料代三千円が必要。交流会費五千円・宿泊費九千円(泊朝食付)
「私たちにどうの観光レクリエーションとは生活に潤い、安らぎ、ときめきをもたらすものですか?」観光についていろいろ勉強してみたい生徒は是非参加して下さい。申し込み締切は、5月15日。各フォーラム定員150名です。参加および内容の問い合わせは、

伊東市役所観光課(実行委員会事務局)
TEL 05577360111
(FAX05577381791)
又は静岡地域学会事務局静岡市紺屋町
TEL 05442738041
(FAX05442710143)まで。

なお、めだかの学校からは、パネラーとして北島亨さんが参加しています。

■素晴らしい春野町のすみれ展

めだかの生徒の尾上さんが会長をされている「春野すみれ草花愛好会」のすみれ展が、三月末の土日に春野町ふれあいセンターで開かれたので行って来ました。濃い紫から白に近いものや黄色のもの、花の大きさも、かなり大ぶりなものから小さなものまで、さまざますみれが展示されていました。植え方も、粋な小鉢にミニ盆栽のように植えられていて、1〜3輪を咲かせているものから、たくさん花を付けたものなど、いづれも可憐で、きれいで、改めてすみれの美しさを教えられました。このように丹誠を込めて育て、工夫を重ねた植え方をされているさまさますみれを見ていると、単なる花の展示ではなく、すみれを素材としたアートだと思いました。

そして、圧巻は、会場の二階から三階へつながる階段を利用した展示でした。自然に恵まれ、素晴らしい景色の春野の山から平野までを再現されたもので、こつこつした大小の石で溪流や川を作り、その中に青白く染めただれ柳の枝をお

イベント情報

● 水俣・浜松展10月に開催

水俣病。あまりにもよく知られたこの言葉は、理解しているとは言いがたい、奥深い現実を物語っています。今、なぜ、水俣でしょうか。

会期：1999年10月9日(土)～17日(日)
時間：午前9時30分～午後9時30分
会場：ナクシシティ浜松展示イベントホール
問い合わせ：水俣・浜松展実行委員会事務局
浜松市砂山町362-1の21
NPO ネットワークセンター内
TEL 053-459-1558
(FAX 同)

■「こんな」トになりました

めだかの学舎「いなぎ自然休養村つみくさ」の舎監、ハラさんが昨年4月、家庭の事情から引退され、後任者によって営業しておりますが、二月から時休業して同施設のお客様をはじめ関係者にご迷惑をお掛けしていたが、どんな風の吹きまわしか突然私のところへ火の粉が飛んできて支配人の役目を負う羽目になってしまった。3月15日より営業を始めたが元公務員、65才の高齢、運転免許なし、全くの下素人と全ての悪条件が整った最低の人材の登用、頼りはめだかの生徒諸君の叱咤激励あるのみ、それを期待しつつ施設のリフレッシュ化、職員研修、年中無休、季節メニューの再構築など手かげ中、勿論めだかの学舎として大いに利用していただけるよう配慮と努力をしていく所存、生まれ変わった「つみくさ」をどうぞ宜しくお願い。(伊藤茂雄生徒)

● 波川つじまつり開催

昨年8月に豊橋市で「豊橋展」が開催されました。開催にあたって大活躍したのが金子芳美・藤原俊子生徒です。それがキッカケとして浜松展へとまりました。

爽やかな五月晴れとともにシブカワツツジのシーズンがやって来る。地元波川つじを愛する会は、町観光協会とともに5月15日から30日まで「波川つじまつり」を開催する。今年のまつりは、従来の「おまつり騒ぎ」から、「ゆつたりつじ鑑賞し、自然の中でのんびりしていたらどう」とまつりのイメージを変えていくというねらい。

一年毎に来訪者も多くなり地元を挙げてまつりに取り組んでいく。常には静かな波川の里もシブカワツツジのシーズンは活気に溢れている。尚、開花情報は、つみくさ(543-0321)または、伊藤茂男(545-0008)まで...

トピックス

☆句坂玲子生徒が、自宅(浜松市神ヶ谷)の隣に土地を借りて、バラ園をつくっています。百五十坪の温室をつくり、その横には丸太小屋を建て、バラの栽培と出荷リースづくり講習会などはじめます。ひとりですきります。夢だったバラ園が実現します。5月には完成予定です。「モチ投げしよう」と言ってるんですが、もともと「モチは各自持参です。ハイ」。楽しみに。

☆太田京子生徒が、浜松市より県議会議員選挙に出て、見事当選しました。県議会における女性議員は、藤枝市の松岡さんとふたりだけです。本来ならこの「強い女性の時代」もっとも県議会における女性の活躍する場があってもいいのに。でも大いに活躍して、後に続く女性も出てくるでしょう。男性諸君、オチオチしておられませんか！

☆事務局長の「リンデンバウム分校」のめだかが卵を生みました。近日中には孵化するでしょう。いやそれよりも、久米久乃利生徒の方が先に「世が生まれました。ちよつと3月の開講日に陣痛がはじまり、同日、見事誕生。お父さんめだかにそっくりとか。数日後、事務局に来たときにはもう親馬鹿ぶり発揮。

それにしても、その少し前に鈴木知賀真、そのまえは前嶋康二・恭代夫婦、そのもつと前は名和紅理代子夫婦。なんだか「めだかの学校付属幼稚園」の必要もでてきたかも...

☆「めだかの学校」を作った童謡詩人・茶木滋さん、昨年11月1日に死去。88歳。ごめい福を祈ります。

茶木さんは、少年時代、童謡音楽会で西条八十、北原白秋らの童謡に刺激を受け、16歳で児童文芸誌に童謡の投稿をはじめた。世に出るきっかけとなった「めだかの学校」は、戦時中、疎開先の箱根から小田原郊外へ6歳の息子とイモの買い出しに出た時に生まれた。二人が荻窪用水に差しかけた時のこと。義夫さんが大声をあげた。「お父さん、メダカ!」。だが、のぞくとメダカは姿を隠していた。義夫さんが言った。「大丈夫、また来ると。だって、ここはメダカの学校だもん」。

4年後、NHKから子供向け歌謡番組の作詞を依頼され、思い出したのが息子との会話だったという。中田喜直という作曲家を得て、この歌は大ヒットした。

※秋田県のめだかの生徒奈良努さんが読売新聞の切抜きを送ってくれました。その転載です。

「おもしろ人立めだかの学校」の校歌はこのようにしてできたんですよ。知っていましたか?。

絶滅希少種になってしまったメダカ。メダカを殖やして川へ戻そう。戻したメダカが育っていく環境を私たちは21世紀に残していかなければならないね。義務として。



◆メダカ春秋

面と私 (伊藤弥兵衛生徒)

面(おもて)に興味をもち始めたのはいつ頃からだったろうかと思ひ浮かべる。

私は日本画家信次の長男としてこの地引佐町波川寺野に生を受けた。

今でこそ父は専業画家(日展秋5回日展春15回入選)であるが、私が子供の頃は水稲、麦、苗木、茶、炭焼き、たばこ、酪農、菊人形背景の仕事、様々な仕事の合間を見て絵を描いて来たようである。

又、波川六所神社祭典の屋台山車人形も毎年若連の人達に頼まれて製作していた時代もあった。

そして3年前より指定された村の伝統芸能、国指定重要無形民俗文化財寺野ひよどりであるが毎年正月3日、午後2時より夕方にかけての芸能である、今でもこの芸能に使用されている面(おもて)が17面残っている。それらの面は父の自家の先祖3代頃に製作されたものと聞いている。

又先祖は狩野派の絵かき3人を幼い頃育てたと口伝に耳にしている。どうも私は生まれ育った回りの影響と父、子供ながらにして面をみる機会が備わっていて、自分でも鬼の面を付け舞った事もあり面とは大縁深いものとなっていたようである。

自家の先祖が父子で面と絵をやったということも現在の私に何か影響があるようにも思えてならない。

10年程の間に近辺の面の修理、復元模作の研究を重ねて来て色々な顔を見てきました。

主に能面はいく通りも種類がある中でどれを取り上げてきたりできるものではないですね。なかでも女面のたぐいは種々雑多の表情を含んでいるから難しい。

顔型には丸型、うりざね型、角型の三通りがあり、一般的に言われて面に向かつて右半分が明るい表情を、左半分は愛いを含んだ表情を表している。特に瞳は八方睨みに彫らなければならぬのです。向かつて右の瞳は正面と左右を使いわけるところによって色々な表情を表現するわけ、能面は決して無表情ではありません。

また、鼻は面の年令なり顔型によつて異なり、口はものを言っている様にも、言っていないようにも見えなければならぬのです。

時代を経た作品に出会って面(おもて)の表情が何え、又作者の刀の流れが知れる裏面が観察出来る時こそ心の鼓動が感じられる時である……。

☆波川東光禅院山門をくぐった直ぐ右手に、薬師堂が再建され落慶法要が4月8日行われました。その扁額書は三ヶ日町永田利夫先生でありますが、彫りは私です。お近くにお出かけの折には是非ご覧になって戴ければ幸いです。

◆人の動き

○鈴木正士さん(豊岡村建設課長から社会教育課長へ)読みが当たって(2)24回の先生に。○石野省三さん(細江町気賀小教頭から西部教育事務所指導主事へ)。○川島安さん(西部農林事務所から農林水産部お茶振興室室長へ)。ごめんなさい、まだ何人かいるでしょうが、分かっている範囲で……。

人の動きと言ふは、第3回のときの教頭をやった坂柳享子さん。昨年の7月にガンを宣告されいま東京板橋区の誠志会病院で闘病生活をしている。病室に仕事を持ち込み、夫でプロのシヤヌドラー坂柳博明さん(第3回校長)のコンサートの企画立案プロデュース活動をしている。そんな享子さんとも長く闘病生活している。この二人を励まそうと、めだかの有志でシヤヌドコンサートを開こうと企画検討していたが、6月14日(月)に、パトリック博明(ドラム竹内直)デナーサクセス、工藤精(ベース)の日程調整ができ開催することになりました。会場・時間・参加費などまだ決まっていますが、生徒の皆さんの協力をぜひお願いします。

ガンと言ふは、ガンと戦いながら細胞と共存して、二人の強者がいます。いつ再発するかわからない不安を感じながらも自らの信念のもと情熱を燃やしてつづける二人は、運業音楽男さん(万葉の時代)と思ひを馳せながら、万葉植物の植栽や万葉の再現など研究指導はさすが松田秋(止)運業の産業文化(旅業)など、人事交流とその二運業情かけの成長と支援活動など、まことに知らぬ。片岡藤雄さん(真金銅版)マナー会長としてこれからの時代、いかに生活の中に会館をとり入れていくか、その大切さを説きながら自ら実践しをひら

ひびいている。

「あれ？この四人だけでも、」ガンと闘うガン細胞と共存信念と情熱「こんなテーマで、特別教室のシムボジウムが聞けそう。」

とにかく「あけられからんとして、楽天的で挑戦的」ころを持つこと。もうひとりの自分をみつめ、もうひとりのあなた発掘「おれたちいい人生だったな、ありがたう。」と言つてこの世を去ろう「これが「めだかの学校」の建学の精神なのである。私たちは21世紀に何を残していくのか、何を伝えていくのか。四人の生きざまは、私たちに大きな指針を与えてくれている。私は思っています。みなさんは如何に……。」

◆事務局だより

2月12日・13日の観音山少年自然の家での特別教室は、52名の生徒が参加して行われました。登校時間ころには、吹雪というあいにくの天候で道に迷う人、側溝にはまる人と遅刻者は多かったのですが、授業がはじまる頃には、星座教室ができるほどに青空が広がるなど、星空マリパコンサートとともに感激のものでした。「21世紀に何を残すか」をテーマに5班に分かれての討議は、途中締めることもできず11時になってしまいました。そして各班240秒の発表。さすが座長！と思えるほどにまとめてくれました。出席できなかった方にも知らせたいと、今回は特別頁4頁をつくってしまいました。次回の特別教室は、「20世紀に足あとを残そう」と10月頃フラメンコによる観劇と、ステップ踏み計画しています。浜松市田町にあるホールを借り切つて行う予定です。定員250人、予定会費四千円～五千円位。食事飲みもの付。一般の方の登校も認めています。乞うご期待。また2000年には、学外講師を交えた「21世紀に何を残すか」シンポジウムなどを計画しようと思つています。

企画提案がありましたらどしどし事務局まであげて下さい。お待ちしております。(神原)

■七期の入校手続きを!!

七期は11年9月1日から12年8月31日までです。新入生・継続生ともに手続きが必要です。

同封の入校申込書に記入し入校金1000円を添えて8月1日までに提出してください。在校生で、手続きがされない方は自動的に名簿からはずれず、入校金納入をもって「めだかの学校生」となります。

■各地のたよりの掲載について

各地域でいろいろの催事があると思ひます。次回発行日は、8月ですので、7月20日までに事務局へファックス、又は封書にて送付ください。

「めだかの学校だより」100文字の主張は、インターネット上にも掲載していますのでご覧下さい。

▼アドレス
http://plaza16.mbn.or.jp/~nb/m23.html

めだかの学校事務局

静岡県引佐郡引佐町東久留女木
〒431-1253
TEL 0539-45-0000
TEL・FAX 0539-45-0001
※「つみくた」は学舎のみです。すべての連絡・お問い合わせは、「事務局」にお願いいたします。